第５次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物

The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

ヤクヤモリ

Gekko yakuensis Matsui et Okada, 1968

戸田守（琉球大学）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会　爬虫類・両生類分科会

環境省 編

令和８（２０２６）年３月

特に文献内で別途指定がない限り、この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：戸田守，2026．ヤクヤモリ．環境省（編）第５次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物，pp. 141-146.

Citation: Toda, M., 2026. *Gekko yakuensis* Matsui et Okada, 1968. *In*: Ministry of the Environment, Japan (ed.), *The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan*, pp. 141-146.

有鱗目 Squamata　ヤモリ科 Gekkonidae　　日本固有

ヤクヤモリ

***Gekko yakuensis* Matsui et Okada, 1968**

カテゴリー判定結果　絶滅危惧Ⅱ類（VU）　B2ab				
基準 A:　－	基準 B:　VU	基準 C:　－	基準 D:　－	基準 E:　－

B2．生息地面積が 2000 km²未満であると推定されるほか、次の兆候が見られる。
a) 生息地が過度に分断されているか、10 以下の地点に限定されている。
【地点数】10 地点以下
b) 出現範囲、生息地面積、生息地の質、生息地点数、成熟個体数のいずれかに継続的な減少が推定・予測される。
【判断理由】
ホテルや公園の建設、港湾整備などに伴う土地改変によりミナミヤモリの分布が拡大し、競争あるいは交雑を介して本種は継続的に衰退している。現在でもその流れは弱まることなく、分布域のほぼ全域で虫食い状に生息状況が悪化している。

評価分科会：　爬虫類・両生類分科会

概要

大隅諸島と九州地方南部の沿岸部近く、長崎県の一部に分布し、常緑広葉樹林内やそれに接した海岸露岩地などに生息する。ミナミヤモリとの交雑が分布域内の多数の場所で進行しており、純系個体群の消滅が危惧される。

基礎情報

【形態】

国内の同属種のなかでは大型の種で、頭胴長は普通メスで 61～67 mm、オスで 57～66 mm で、最大値は雌雄ともに 73 mm に達する。体の背面は灰褐色ないし緑褐色で、背中部に縦に並ぶ暗色斑は多くの場合左右に二分し、体軸方向に沿った 2 列の点線のようになる。腹面には通常、多数の暗色斑があり、時に虫食い状になる。上・下唇板は黄色味を帯びており、周囲の鱗よりも色は明るい。形態的にはミナミヤモリとよく似ているが、体が大きく、鼻間板が周囲の鱗よりも顕著に大きいこと、尾の背面、環状溝前縁にある対になった大型鱗が尾の先端付近まで続く点でミナミヤモリと区別できる。オスの前肛孔の数は 3～8 個の範囲で変異するが 5～6 個のことが多く、ミナミヤモリよりも発達が悪い。

【生活史】

少なくとも 3 月には活動を開始し、夏場にかけて多くの個体が出現する。産卵期は 6～9 月で、一度に 2 個の卵を産む。年に複数回産卵すると思われるが詳細は不明。卵は長径 15 mm、短径 10 mm ほどで、2 つ並べてガジュマルの木の窪みや森林に接した露岩の隙間などに産み付けられる。森林内の東屋や廃墟などではしばしば多数の卵が壁面に固めて産み付けられており、その数は時に 3 桁に及ぶ。成熟年齢や寿命は不明。昆虫類などを中心に小型の無脊椎動物を食べる。

【生息環境】

おもに常緑広葉樹林内やその林縁部に生息する。海岸の岩場は主要な生息場所のひとつであるが、周囲に植生が乏しい露岩はあまり好まない。道路脇の壁面など、森林に隣接する人工物ではしばしば多くの個体が見られ、漁村などでは民家の壁面でも普通に見られる。

生息環境区分：	【陸域_低標高地】森林，岩壁・ガレ場（石灰岩地等） 【陸域_平地部】森林，市街緑地，海崖・岩浜・岩礁（磯）
国土地域区分：	（1）奥山自然地域，（2）里地里山・田園地域，（5）沿岸域，（7）島嶼地域

【分布域】

大隅諸島の屋久島、種子島、馬毛島および九州地方南部と周辺の小島に分布するほか、長崎県の一部の離島からも見つかっている。九州地方では沿岸部とその周辺地域に分布し内陸部では見られない。同属種のミナミヤモリ（*Gekko* hokouehsis）、ニシヤモリ（*Gekko* sp.）、ニホンヤモリ（*Gekko japonicus*）とはそれぞれ、本種の分布域の南側、西側、北側で一部重複する。

現在の生息状況

【分布域の現況】

地理的な分布範囲が縮小している証拠はないが、環境改変にともなって、各地でより開

放的な環境を好むミナミヤモリやニホンヤモリが勢力を拡大しており、その影響でヤクヤモリの分布域は徐々に狭まっている。

【生息地の現況】

護岸や開発により、生息地の広い範囲でミナミヤモリやニホンヤモリが増えている。その結果、雑種集団の形成や、種の置き換わりが進行している具体的な証拠がある。このように他種が介在した純系個体群の存続の危機は比較的小規模な環境改変によってももたらされると考えられ、この点を考慮するとその生息環境は明らかに悪化していると言える。

【個体数の現況】

個体数やその動態については資料が乏しく不明であるが、ミナミヤモリとの交雑個体の出現頻度は各地で増加傾向にあり、その結果として、ヤクヤモリの純系個体の数は減っている。

存続を脅かす要因

同属種のミナミヤモリと各地で交雑し、交雑個体も稔性をもっているため場所によっては雑種集団が形成されている。経年的な種組成の変化を調べた研究では、調査した 7 地点全てで、ここ 20 年ほどの間に交雑個体やミナミヤモリの増加がみられ、かつて交雑個体が優先していた地点ではヤクヤモリが全く確認できなくなったというデータが示されている。屋久島や種子島にもミナミヤモリが持ち込まれ、少なくとも屋久島では遺伝子浸透が進行している。行動学的な実験から、ミナミヤモリのメスは、オスの求愛コールによって自種と他種を識別できるのに対し、ヤクヤモリのメスはそれができないことが示されており、交雑による影響をより受けやすいことが指摘されている。DNA 分析により、交雑帯におけるミナミヤモリから本種への遺伝子浸透は限定的であることが示されているが、2 種の交雑の様式は環境によって異なる可能性もあり、より広い視点からの再評価が望まれる。加えて、環境改変によって、より開放的な環境を好むニホンヤモリが増え、本種と置き換わった地点もある。さらに宮崎と屋久島に国内外来種のオキナワキノボリトカゲ（*Diploderma polygonatum polygonatum*）が定着し、競合による本種への悪影響が心配されている。

要因の区分：	（過去）	森林伐採，海岸開発，土地造成，交通インフラ建設，交雑（在来種による）
	（現在）	森林伐採，海岸開発，土地造成，交通インフラ建設，交雑（在来種による）

特記事項

本種はミナミヤモリと近縁でありながら、その分布範囲は互いに重なり、島嶼部では 2 種が排他的に分布する点で、種分化や種間競争の理解のための高い学術的価値を有する。しかし、環境改変や種の人為的な持ち運びにより、本来の分布パターンは崩壊に向かって

いる。長崎県から見つかった個体群は地理的に不連続になっており、その起源に興味が持たれるが、十分な調査・研究はなされていない。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第４次 2020:	ヤクヤモリ	*Gekko yakuensis*	VU
第４次 2019:	ヤクヤモリ	*Gekko yakuensis*	VU
第４次 2018:	ヤクヤモリ	*Gekko yakuensis*	VU
第４次 2017:	ヤクヤモリ	*Gekko yakuensis*	VU
第４次 2015:	ヤクヤモリ	*Gekko yakuensis*	VU
第４次:	ヤクヤモリ	*Gekko yakuensis*	VU
第３次:	—	—	—
第２次:	—	—	—
第１次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和６年度末時点）

【長崎県】絶滅危惧ⅠB 類(EN)，【宮崎県】準絶滅危惧(NT-r)，【鹿児島県】絶滅危惧Ⅱ類

保護に係る法令指定状況（令和７年度末時点）

指定なし

参考文献

- Jono, T., 2016. Absence of temporal pattern in courtship signals suggests loss of species recognition in gecko lizards. Evolutionary Ecology, 30: 583–600.
- Jono, T., T. Kawamura, and R. Koda, 2013. Invasion of Yakushima Island, Japan, by the subtropical lizard *Japalura polygonata polygonata* (Squamata: Agamidae). Current Herpetology, 32: 142–149.
- 前之園唯史・戸田守，2007．琉球列島における両生類および陸生爬虫類の分布．Akamata，18: 28‐46.
- 長崎県レッドデータブック編集委員会，2011．長崎県レッドデータブック 2011-ながさきの希少な野生動植物-普及版．pp. 199．長崎県環境部自然環境課，長崎.
- 岡田純，1998．日南海岸で発見されたヤクヤモリ．比婆科学，185: 1‐5.
- 岡田純，1998．柴田保彦氏が採集した大隅半島周辺のヤモリ標本の検討．比婆科学，185: 7‐13.
- Okamoto, K., A. Tominaga, and M. Toda, 2024. Demographic imbalance in the hybrid zone led to asymmetric gene flow between two closely related geckos, *Gekko hokouensis* and *Gekko yakuensis* (Squamata: Gekkonidae). Biological Journal of the Linnean Society, 141: 118–132.

- 柴田保彦，1981．種子島のヤクヤモリ．自然史研究，1: 149‐154．
- 竹中践，2002．ヤクヤモリの林内神社の利用．Akamata，16: 19‐21．
- 竹内寛彦・戸田守，2006．馬毛島からのヤクヤモリの記録．日本爬虫両生類学会報，2006: 26‐27．
- Toda, M. and T. Hikida, 2011. Possible incursions of *Gekko hokouensis* (Reptilia: Squamata) into non-native area: An example from Yakushima Island of the Northern Ryukyus, Japan. Current Herpetology, 30: 33–39.
- Toda, M., S. Okada, H. Ota, and T. Hikida, 2001. Biochemical assessment of evolution and taxonomy of the morphologically poorly diverged geckos, *Gekko yakuensis* and *G. hokouensis* (Reptilia: Squamata) in Japan, with special reference to their occasional hybridization. Biological Journal of the Linnean Society, 73: 153–165.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Gekko yakuensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Gekko yakuensis* is listed as VU under criteria B2ab.

B2. Area of occupancy estimated to be less than 2,000 km², and estimate indicating at least two of a-c:

a. Severely fragmented or known to exist at ten or fewer locations.

b. Continuing decline, observed, inferred or projected, in any of the following:

(i) extent of occurrence

(ii) area of occupancy

(iii) area, extent and/or quality of habitat

(iv) number of locations or subpopulations

(v) number of mature individuals

Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_Low-altitude area】Forest, Cliff/Talus area (e.g. limestone area) 【Terrestrial/Freshwater area_Plain】Forest, Urban green area, Sea Cliff/Rocky beach/Reef
Threat types:	Logging and wood harvesting, Coastal development, Land development, Transportation infrastructure construction, Hybridization (with native species)
Law designation status for conservation	―



執筆者:	戸田守（琉球大学）
Author:	Mamoru Toda

公表年月：2026 年 3 月